

# 共通テスト「情報Ⅰ」の 受験対応を考える

いよいよ新課程に対応した2025年度入試まであと1年となりました。2025年度入試で最も注目を集めるのは大学入学共通テスト（以下、共通テスト）に「情報Ⅰ」が加わることではないでしょうか。

各大学の「情報Ⅰ」の扱いも明らかになりつつあり<資料>、高校でも「情報Ⅰ」の受験に向けた準備が進められていますが、一方で生徒・保護者は大きな不安を抱えているようです。

そこで、生徒・保護者が「情報Ⅰ」の受験に向けて不安に感じるポイントや、共通テスト「情報Ⅰ」に向けた各校の検討状況をお伝えするとともに、2校の3年次の指導計画をご紹介します。

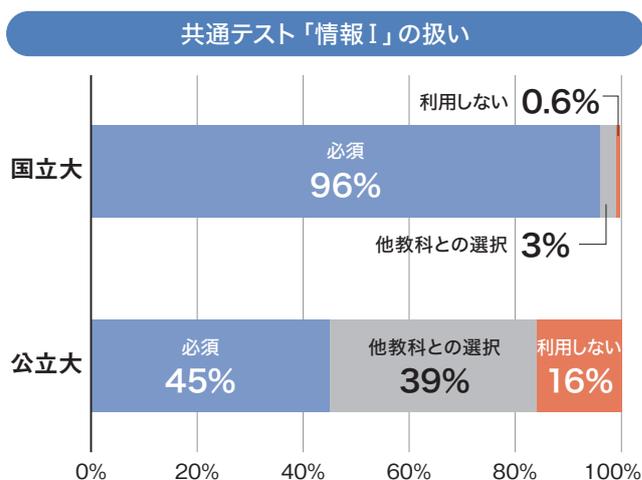
## CONTENTS

- アンケートから見る共通テスト「情報Ⅰ」対応の状況 ➔ p58

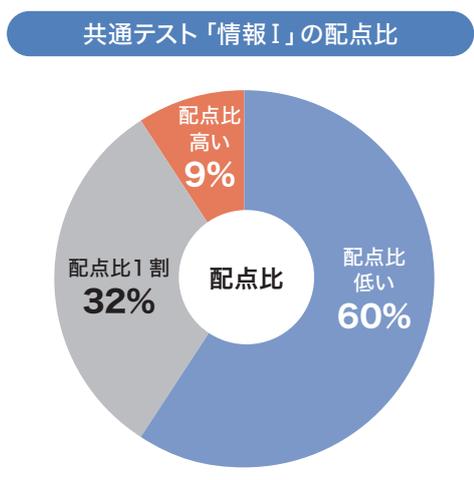
---

- 3年次の「情報Ⅰ」指導計画
  - 北海道札幌北高等学校 ➔ p60
  - 近畿大学附属高等学校 ➔ p62

### 資料 国公立大 共通テスト「情報Ⅰ」の設定状況



※河合塾調べ。2023年12月初旬現在、公表180大学の募集区分に基づき一般選抜（前期日程）で集計



※2023年12月初旬現在、河合塾調べ  
※共通テストで6教科8科目を課し、情報Ⅰを点数化する前期日程の募集区分について集計。1,000点満点中100点（配点比1割）を基準に、それより高い大学と低い大学に分類した。

## アンケートから見る共通テスト「情報Ⅰ」対応の状況

Point

- ✓ 「情報Ⅰ」の受験に向けた指導は3年次からが多数
- ✓ 「情報Ⅰ」に大きな不安を感じる生徒・保護者が多い
- ✓ 3年次の指導方針・計画を示すことが重要

### 共通テストに向けた準備を始める時期

#### 「情報Ⅰ」の受験に向けた準備は3年次からが多数

各高校ではどのように共通テスト「情報Ⅰ」に向けて準備を進めているのか。河合塾が毎年実施している「教科に関するアンケート<sup>(注)</sup>」から見ていこう。

<図表1>は「情報Ⅰ」の履修を終える学年を集計したものである。9割以上の高校が2年次までに終わっており、3年次に「情報Ⅰ」の授業を置いている高校はごくわずかである。

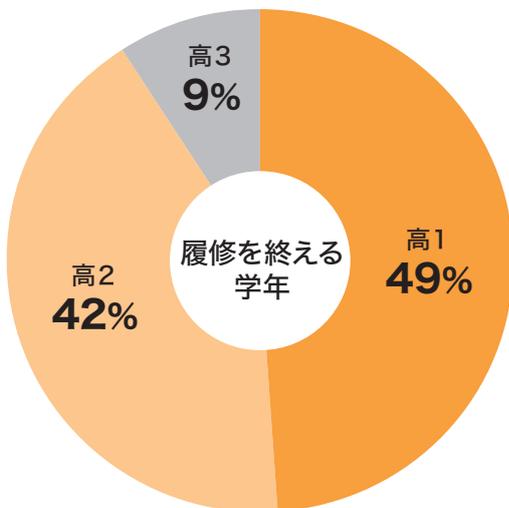
<図表2>は共通テスト「情報Ⅰ」への対応内容を聞いたものである。「学校では実施しない」と回答した高校は5%、「未定」は24%にとどまり、多くの高校がア

ンケートを実施した7～9月時点で、共通テスト「情報Ⅰ」に向けて何かしら対応を予定していた。

<図表3>は、共通テスト「情報Ⅰ」に向けた指導開始時期をまとめたものである。基本事項の復習、基礎～応用力養成のための問題演習は3年次1学期までに指導を開始する高校が過半数である。本番を意識した問題演習や、共通テスト対策模試を活用した指導を開始する時期は、8割弱の高校が3年次の夏休み以降と回答した。

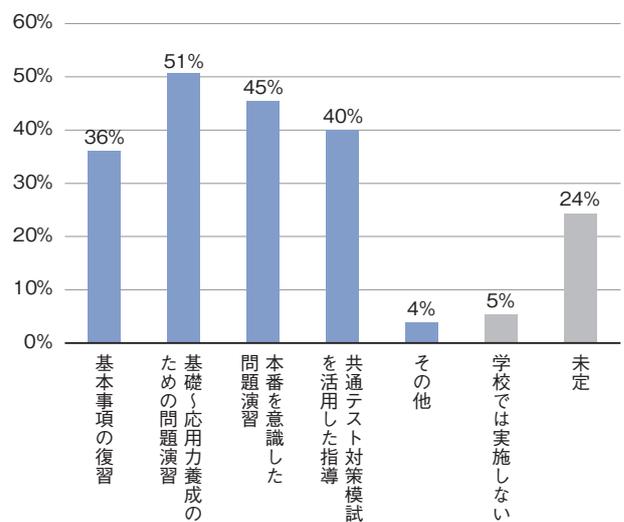
なお、<図表1>で分かるように、「情報Ⅰ」の授業を3年次に置いている高校は少なく、長期休暇中の講習や学期中の補習授業、自学自習教材の配付など、授業以外の方法で「情報Ⅰ」の受験に向けた準備を行うことがうかがえる。

図表1 「情報Ⅰ」の履修を終える学年 (n=715)



※河合塾2023年度「教科に関するアンケート」より  
コース別に回答・集計

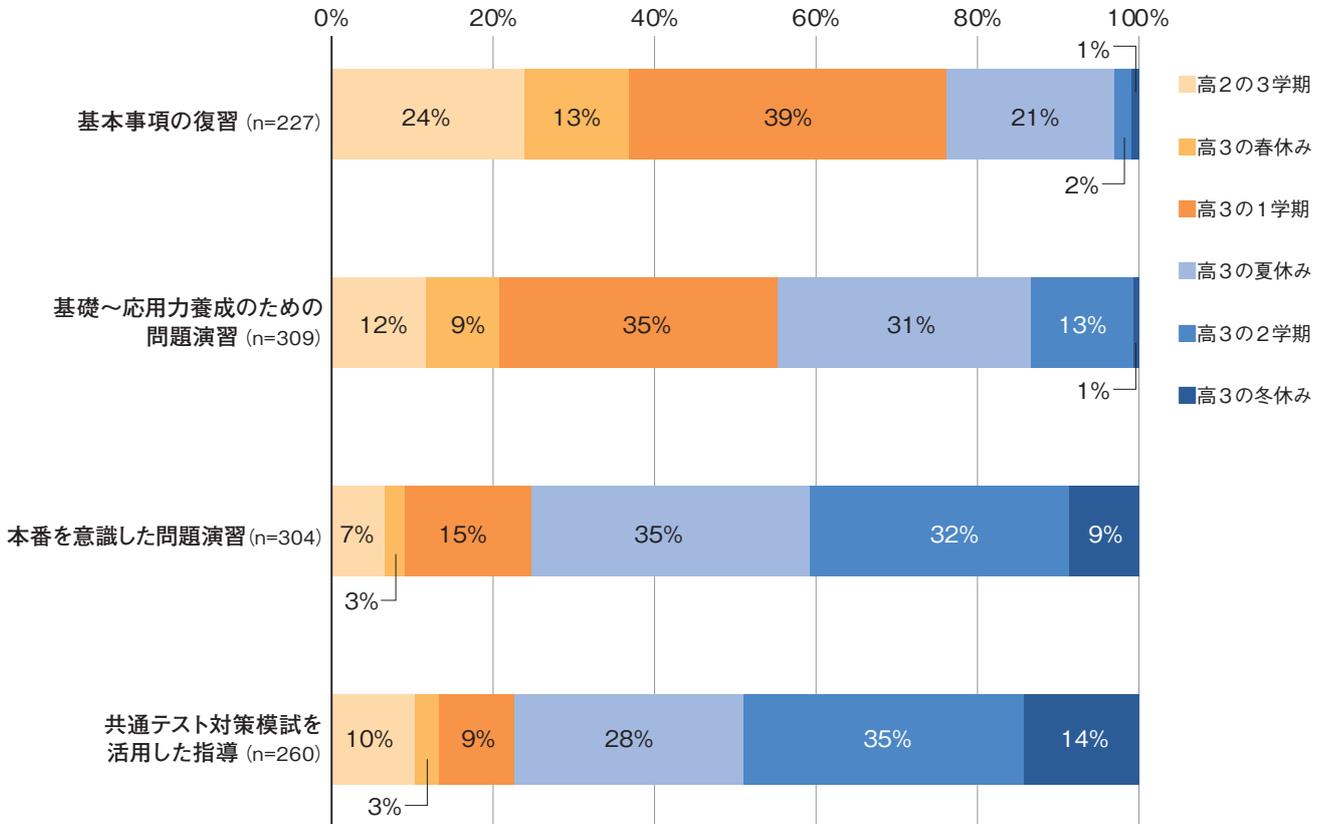
図表2 「情報Ⅰ」の共通テスト対策の内容 (複数回答可) (n=478)



※河合塾2023年度「教科に関するアンケート」より

(注) 高校・中等教育学校を対象に、2023年7月～9月にかけて実施。回答いただいた学校数896校。

図表3 「情報Ⅰ」の共通テスト対策の内容と指導開始時期



※河合塾2023年度「教科に関するアンケート」より。グラフは「その他」を除外して作成

### 生徒・保護者の声

#### 対策の進め方に対し不安を抱える生徒が多数

生徒・保護者に共通テスト「情報Ⅰ」への不安について聞くと、大学入試に向けた学習方法やスケジュールのイメージがわからないことなどが挙がる。

#### 例

- 過去問がないのでどこまで勉強すればよいかかわからない
- 学校の授業で入試に太刀打ちできるか不安
- 3年生で「情報」の授業がなく、自分で勉強するしかなくとても不安
- 他の主要科目だけでも大変で、勉強する時間がとれない
- 国公立大は科目が多く「情報」に時間がとれないのが不安

一方で、<図表2・3>を見ると、すでに多くの高校が共通テスト「情報Ⅰ」に向けた指導方針や計画を検討している。しかし、これらが生徒や保護者に十分に伝わっていないことが、不安につながっているのではない。

たとえば「3年次夏休みに講習を実施する」「2学期以降に問題集を配付して自学自習できるようにする」といった計画を伝えることで、生徒は学習の見通しを持つことができるようになるだろう。

他教科との兼ね合いの中で「情報Ⅰ」にどの程度力を入れればよいか判断がつかないことも不安の要因だ。

共通テスト「情報Ⅰ」の扱いや配点比はP57の<資料>に示した通りだが、個別試験で課す大学は非常に少数である。2025年度入試に向けては「情報Ⅰ」に注目が集まりがちだが、大学入試全体への影響度を冷静に考え、他教科も含めた学習の優先順位を生徒に考えさせることが大切だ。

## 3年次の「情報I」指導計画

北海道札幌北高等学校 情報科 前田健太郎 先生



### 指導のポイント

- ✓ 北海道大では点数化されないが油断しないよう指導
- ✓ 2年次の夏に問題集を配付し意識づけ
- ✓ 3年次の夏までにひと通り復習をする予定
- ✓ 夏期講習で復習、冬期講習で問題演習に取り組む

### 「情報I」の履修時期・単位数や授業内容について教えてください。

1年次に2単位設置し、実習を中心とした授業を行っています。単元を終えるごとに共通テストの試作問題やサンプル問題を解いてもらい、実習中心の授業でも入試対応上問題ないか確認しながら進めてきました。新課程になる前は、教員が重要だと考える分野・単元に重きを置いて授業をしてきましたが、2025年度からの共通テストでは教科書からまんべんなく出題される可能性があるため、今までよりも網羅的に扱うようになりました。

特に、プログラミングの部分は従来よりも時間をかけて指導するようになりました。プログラムの基本やアルゴリズムの基本構造、変数、計算、配列などの学習をしたあとに、4人対戦のすごろくゲームの制作を行います。

共通テストの試作問題を見ると、変数がどのように変化していくかをトレースするような練習も必要だと思いますが、すごろくゲームだとその理解がしやすく、うまくプログラミングができないときに、原因をたどる経験が共通テストに向けても生きてくるのではないかと考えています。

### 共通テスト「情報I」に向けてどのような準備を進めていますか？

2年次の夏休み前に希望者を対象に「情報I」の問題集を購入しました。それとは別に公立千歳科学技術大の先生が提供するプログラミングのオンライン教材を利用できるようにしてもらいました。

本校では、北海道大を志望する生徒が多いですが、北海道大の「情報I」の扱いを見ると、必須科目ではありますが配点はしないため、「情報I」の対策をしなくてもいいと考える生徒が出てくると思われます。ただ、共通テストの得点次第では「情報I」の配点がある大学に出願先が変わる可能性もあるため、進路担当や担任の先生方が協力して、生徒に油断しないようにと声を掛けてくれました。そうしたこともあり、1学年320名いる中で280名ほどが問題集を購入しました。

オンライン教材、問題集に取り組む生徒はあまり多くなさそうです。そこで、12月の模試に向け、「情報I」の復習をするよう促しました。この模試も希望者受験ですが、260名ほどが申し込んでいます。模試の受験に向け、問題集を活用して復習をするように声掛けを行い、冬までに一度取り組んでもらいたいと考えています。年明け

#### 情報科教員数

2名  
うち専任教員2名

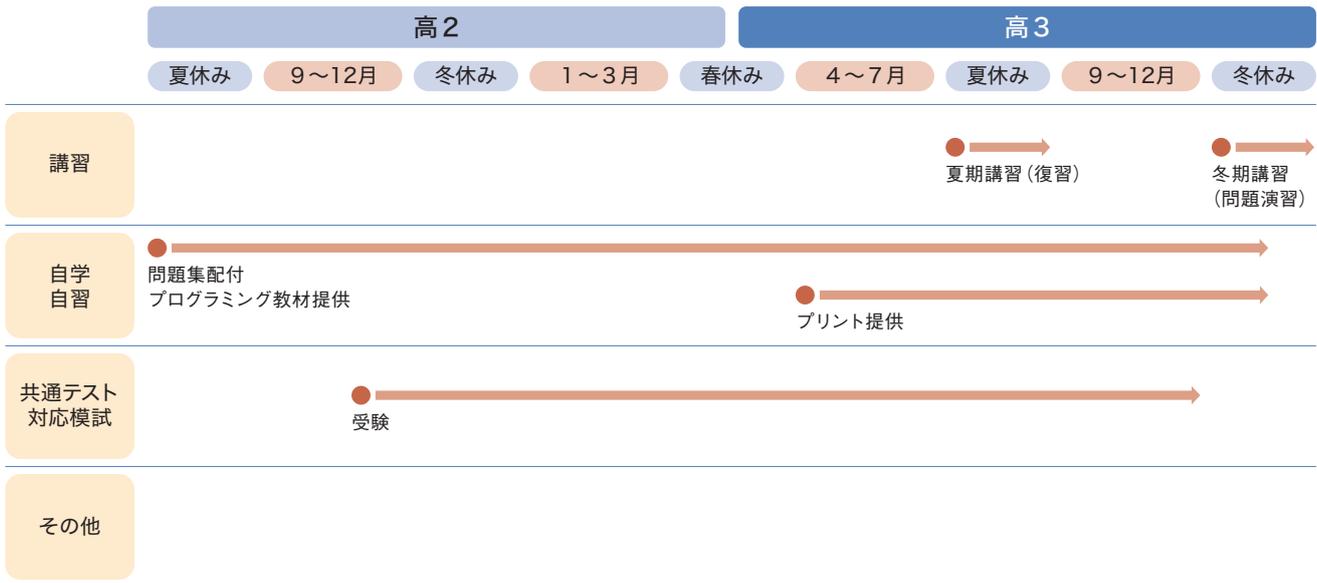
#### 「情報I」の履修時期・単位数

1年次・2単位

#### 「情報I」の受験対応

2年次夏 問題集、プログラミング教材  
2年次12月 模試  
3年次夏 夏期講習（復習）  
3年次冬 冬期講習（問題演習）

資料 札幌北高校の「情報Ⅰ」受験に向けたスケジュール



※取材内容を基に河合塾作成（2023年11月時点の検討案）

以降は、各社で実施される共通テスト模試にも「情報Ⅰ」が含まれてくるので、そうした模試に向けて準備を進めてもらいたいです。

3年次にはどんなことを行う予定ですか？

夏までにひと通り復習を終えることが必要だと思っています。まだ検討中ですが、夏と冬に講習を実施したいと考えています。夏期講習では、最低でも3回は授業を行い、試作問題でいうと第1問、第3問、第4問にあたる単元の内容をそれぞれ1回ずつ扱おうと計画しています。1年次に單元ごとに解かせていた試作問題やサンプル問題の結果を見ても、生徒によって理解度に差がありました。2年次までは自力で復習してもらっていましたが、3年次に講習を実施することで、「情報Ⅰ」を苦手としている生徒が指導を得る機会としたいと思っています。ただし、他教科もある中で「情報Ⅰ」の講習を追加することは、生徒の負担が増すことでもありますので、あまり時間は取れないと思います。どの程度時間を割くか、バランスが難しいところです。

冬期講習は、共通テスト直前の時期になりますので、ひたすら模擬問題を解くような形式になると思います。試作問題の第2問にあたるモデル化やシミュレーションなどの分野は、講義形式で教えるというより、さまざまなパターンの問題に取り組むことで問題に慣れ、初めて見る問題にもあまり戸惑わないようにしていくことが大切です。

また、「情報Ⅰ」に限らないことかもしれませんが、

近頃の共通テストを見ると、とにかく量が多く時間との戦いになると思いますので、直前期の問題演習では、自分が得意な分野を把握した上で得点が取れる問題から優先的に取り組む、といったことも意識しながら練習してもらおうと思います。

受験に向けた不安や課題はありますか？

1つは3年次に行おうと考えている講習の運営面です。問題集の購入や模試の受験と同じように280名ほどの生徒が受講を希望した場合、担当教員2名で対応できるのか、時間割は組めるのかといった点は不安です。講習を実施する場合も、限られた時数の中での対応になりますので、講習だけで本当に入試に対応できるのかという点も懸念しています。

これから検討を進める中で、講習の実施が難しいという場合は、動画での配信なども選択肢に入れたいと思います。復習の機会が足りない場合、プリントを作成して生徒が好きなタイミングで問題に取り組めるようにするなどの対応も考えています。他の教科とは異なり過去問もありませんので、問題を考えるのが難しいですが、共通テスト数学②の1科目である「情報関係基礎」の第1問や第3問などは参考になるのではないのでしょうか。

共通テスト本番に向けては、模試の問題に取り組むことが大事だと思います。模試を受け、復習を丁寧に行い、情報の問題だけスクラップしておくという復習材料になることなどを伝えていこうと思います。

## 3年次の「情報I」指導計画

近畿大学附属高等学校 情報科 岡寄麻由 先生



### 指導のポイント

- ✓ 1年次は「情報嫌い」を作らない授業を展開
- ✓ 2・3年次に講習を実施し、知識の定着を図る
- ✓ 数学の進度を意識して講習で扱う内容を検討
- ✓ 「情報I」から離れない仕掛けづくりが大切

### 「情報I」の履修時期・単位数や授業内容について教えてください。

1年次に2単位設置しています。共通テストを意識した授業というよりは「情報嫌いを作らない」を目標に、従来のやり方に近い授業を行ってきました。オリジナルのシラバスを作成し、音楽を編集したり、パラパラ漫画の制作を通して画像処理を理解してもらうなど、生徒に興味を持ってもらえるような実習も織り交ぜながら授業を進めてきました。

共通テストの試作問題を見ると、数学や国語など他教科で得られた知識や読解力を使えば解けるような問題もありますが、「情報I」を嫌いになってしまうと、そうした問題に取り組もうともせず投げ出してしまう可能性があると思いました。そこで、データの収集やシミュレ

ーション、仮説検定などの分野に関しては、数学で「データの分析」など統計の分野が未修の段階で教えるのは難しいと判断し、用語の解説程度にとどめました。プログラミングに関しても、実習では必要最低限のごく一部しか扱っていません。

### 共通テスト「情報I」に向けてどのような準備を進めていますか？

授業では情報嫌いを作らないことに重きを置いていたこともあり、1年次に実施した授業だけでは共通テストへの対応は難しいと感じました。そこで、2年次の夏に10日間ほど講習を実施しました。もともと他教科で実施していた枠組みの中に「情報I」も追加した形です。講習の実施については、情報科の教員から要望しましたが、同時に進路担当や数学科の教員も配慮してくれて、実現ができませんでした。

講習は、中高一貫生と高校から入学した3年制課程の生徒とで扱う内容を分け、中高一貫生は1年次の授業で十分に扱えなかった仮説検定を取り上げ、数学担当経験がある教員が本校の情報科に合わせて作成したオリジナルテキストをもとに講義と解説を行いました。3年制課程の生徒に対しては、1年次の復習として問題演習を行うほか、共通テストの試作問題の解説も実施しました。

扱う内容を分けた理由は数学の進度の違いです。「情報I」の「データの活用」の分野は、「数学I」の「データの分析」や「数学B」の「統計的な推測」との関連が強いため、できれば数学で履修したあとに、「情報I」



#### 情報科教員数

4名  
うち専任教員2名、非常勤講師2名



#### 「情報I」の履修時期・単位数

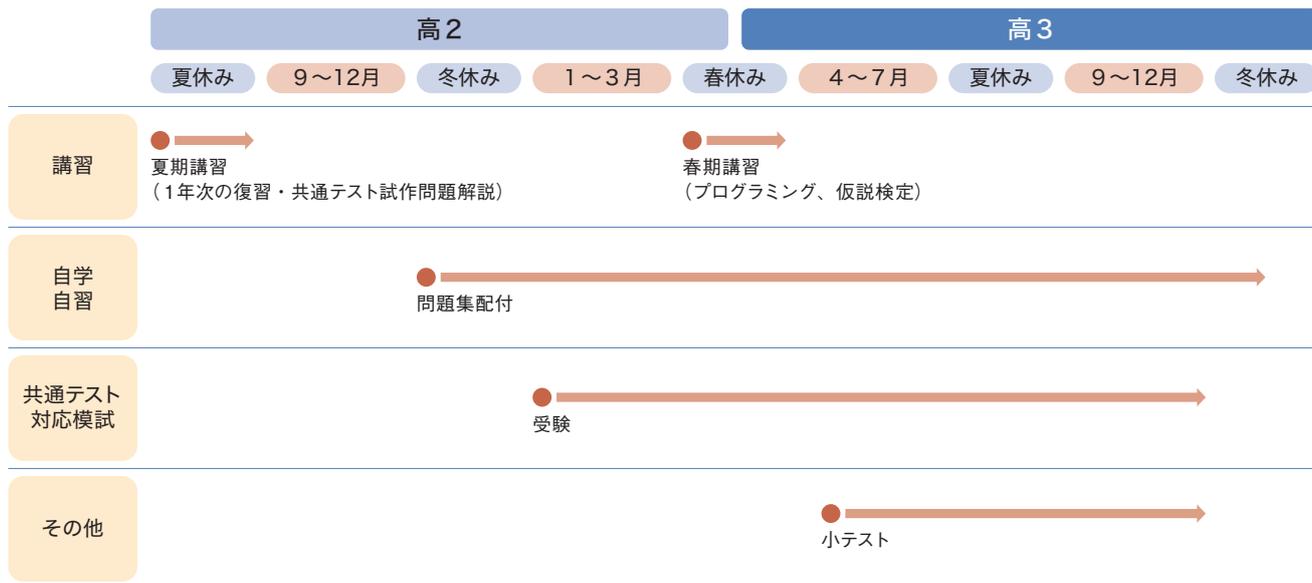
1年次・2単位



#### 「情報I」の受験対応

2年次夏 夏期講習  
2年次冬 問題集  
3年次春 春期講習

資料 近畿大学附属高校の「情報Ⅰ」受験に向けたスケジュール



※取材内容を基に河合塾作成 (2023年11月時点の検討案、3年制課程の生徒のスケジュール)

で詳しく扱いたいと考えていました。当初は学年一律で同様の内容を実施しようと考えていましたが、3年制課程の生徒の数学の進捗を勘案し、それぞれ適切なタイミングで実施することにしました。同じ学年で一律の対応をするのではなく、それぞれの生徒に見合った形で講習を実施できたのは、苦手意識を作らないという点で良かったと感じています。

2年次の冬期講習はどんなことを実施しましたか？

2年次の冬は、新たに問題集を購入し、中高一貫生には分野を問わずさまざまな問題演習に取り組んでもらいました。3年制課程の生徒は時間の制約上、冬期講習を実施することができませんでしたが、同じ問題集を購入してもらっています。「情報Ⅰ」から離れてしまう期間をなるべく作らないようにしたいとは思っていますが、他教科の学習もある中で生徒の負担を考慮しなければいけませんから、自学自習で完全に生徒任せにするのではなく、学校側からいくつか問題を選定し、課題として出すという形をとりました。

問題演習の教材は、すでに持っているICT教材を活用することもできましたが、「情報Ⅰ」の入試に対応するために新たに問題集を購入することで、生徒に意識づけを行う意図もあります。また、講習ですべての問題を扱うことはできませんから、自学自習の際も生徒自身が手軽に取り組みやすいよう、問題集は比較的薄く、解説が丁寧なものを選定しました。

3年次にはどんなことを行う予定ですか？

まだ具体的に決まっていない部分も多くありますが、情報科の教員だけでなく、進路担当教員や学年団も含め、対策は必要だという共通認識を持っていますので、何かしら実施をする前提で検討を進めています。

春期講習は、授業で深く扱うことができなかったプログラミングを取り上げ、時間をとってじっくりと問題を解く機会を設けたいと考えています。3年制課程の生徒に対しては2年次の講習で扱えなかった仮説検定を扱うかもしれません。

入試に向け、3年次に「情報Ⅰ」の単位を設置する案もありましたが、教員数や他教科との兼ね合いの面から実現が難しかったため、他の時間をうまく使って復習の機会を作っていこうと思います。

たとえば、本校では朝のHR時に10分間、さまざまな教科の小テストを行う時間を設けていますが、その中に「情報Ⅰ」を追加してもらうことも有効かもしれません。もちろん、模試の受験も促していく予定です。とにかく、入試本番までの期間、「情報Ⅰ」から離れてしまわないようにうまく時間を割いてもらうことが大切です。初めての受験指導ということで、教員としても不安な気持ちがありますが、他教科の教員や進路担当とも連携しながら、入試に向けて準備を進めたいと思います。